

| 科目コード | 20305  | 区 分  | 専門基礎科目 |     |   | 実務経験のある教員等による授業科目 |    |      |    |
|-------|--------|------|--------|-----|---|-------------------|----|------|----|
| 授業科目名 | 次世代教育学 | 担当者名 | 前田 一誠  |     |   | ○                 |    |      |    |
| 配当年次  | 1      | 配当学期 | 前期     | 単位数 | 2 | 授業方法              | 講義 | 卒業要件 | 必修 |

### <授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育をになう「教師」育成のために、学校教育の現代的課題に焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察することを目的とし、学修成果として、教職に対する理解を深めることができるようになります。

### <授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な資質能力を身につけるために、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識を常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることを目標とします。

### <授業の方法>

・資料プリントを配布し、それに基づいて講義を進めます。講義内においてレポートを作成し提出することを、出席確認としても扱います。・授業形態は、講義形式だけではなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・これからの教育に関するプレゼンテーションの準備：1～2時間程度・これからの教育に関するグループでの発表打合せ：1時間程度・これからの教育に関する発表後の振り返りと修正：1～2時間程度

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー3（豊かな教養と、現代日本の社会と学校教育に関する幅広い知識と、理解する能力を身に付けている）及びディプロマポリシー7（子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成果をめざした生涯学習力を身に付けている）と関連づけられています。豊かなコミュニケーション能力を有し、子どもの未来に対する強い使命感をもち、教師として成長し続ける力の育成をめざします。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度 20%、発表資料（プレゼンテーションの内容と方法・技術） 30%、レポート 50%により判断。  
※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は各回の担当教員が行います。

### <教科書>

※特にありません。授業内で資料を配布します。

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

| 回  | テーマ                | 授 業 内 容                                                            |
|----|--------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 1  | 次世代に求められる教育とは      | 授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法について                                           |
| 2  | 現代の教育改革の状況         | 教育改革の現状とその方法の1つである「表現活動」の教育的価値について ※表現活動（アウトリーチ）演習の事前指導を含む         |
| 3  | これから求められる教育のあり方（1） | 学校教育が抱える課題解決のための方法の1つとして、表現教育を体験する。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習         |
| 4  | これから求められる教育のあり方（2） | 学校教育が抱える課題解決のための方法の1つとして、表現教育を体験する。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習         |
| 5  | これから求められる教育のあり方（3） | 学校教育が抱える課題解決のための方法の1つとして、表現教育のねらいを理解する。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習     |
| 6  | これから求められる教育のあり方（4） | グループで表現を考えることで、主体的な学習態度を養う。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習                 |
| 7  | これからの学校教育（1）       | 「GIGAスクール構想」に関する講義をおこなう。                                           |
| 8  | これから求められる教育のあり方（5） | グループで表現を考えることで、主体的な学習態度を養う。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習                 |
| 9  | これからの学校教育（2）       | グループに分かれて、「GIGAスクール構想」に関する発表の準備を進める。                               |
| 10 | これから求められる教育のあり方（6） | 全体で表現を考え実践することで、主体的な学習態度や協調性、コミュニケーション力を養う。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習 |
| 11 | これからの学校教育（3）       | グループごとに、「GIGAスクール構想」に関する発表をおこない、意見交流をする。                           |
| 12 | これから求められる教育のあり方（7） | 全体で表現を考え実践することで、主体的な学習態度や協調性、コミュニケーション力を養う。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習 |
| 13 | これからの学校教育（4）       | グループごとに、修正した「GIGAスクール構想」に関する発表をおこない、意見交流をする。                       |
| 14 | これからの学校教育（5）       | 「GIGAスクール構想」に関する最終発表をおこない、意見交流をする。                                 |
| 15 | これからの学校教育（6）       | 本授業を通して学んだことをレポートにまとめて意見交流をする。                                     |

|           |       |      |      |        |   |      |                   |      |    |
|-----------|-------|------|------|--------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード     | 21100 |      | 区 分  | 専門基礎科目 |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業<br>科目名 | 教職入門  |      | 担当者名 | 久田 孝   |   |      | ○                 |      |    |
| 配当年次      | 1     | 配当学期 | 後期   | 単位数    | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

### <授業の概要>

教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさ、そして、よろこびややりがいを、実際の学校現場での実践、事例を通して学んでいく。これまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。

### <授業の到達目標>

1. 将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。2. 自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。3. 学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。

### <授業の方法>

各章のテーマに沿って、必要に応じて、それぞれの学校現場で教職経験をもった教員が指導補助に入りながら講義を行っていく。必要に応じて参考書を提示したり、プリントを配布したりして補完していく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、次週の指導内容のキーワードの下調べ、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。前回の内容、もしくは事前学習の内容についての毎時間小テストを行う。（ノートへのまとめ記載・毎回1時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてレポートにまとめ提出。（毎回1時間程度）※レポートはWordで作成し、翌日の17:00までに所定のDropboxに投函すること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー6（高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。）と関連付けられている。現代日本の初等教育に関する幅広い知識を修めるだけでなく、次世代をになう教育者として学び続ける姿勢や思考力、実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義に臨む意欲・姿勢・態度 30%、レポート・小テスト 70%※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力である。「教職入門」、においては各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義中における姿勢を重視して評価する。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼす。

### <教科書>

中田正浩・代表編著2020, 4 『新しい視点から見た教職入門』 大学教育出版  
「渡邊 正樹 2020, 3, 27」「女性スポーツ研究センター 2020, 12」「学校安全と危機管理」「女性アスリートダイアリー2021」「大修館書店」「大修館書店」  
文部科学省 2010, 3生徒指導提要 教育図書

### <参考書>

梶田叡一 2010, 8 改訂 実践教育評価辞典 文溪堂  
梶田叡一 2012, 8 教育フォーラム50＜やる気＞を育てる 金子書房  
日本学校メンタルヘルス学会 2017, 9 学校メンタルヘルスハンドブック 大修館書店

### <授業計画>

| 回  | テーマ                  | 授 業 内 容                                                             |
|----|----------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 1  | オリエンテーション            | 本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明                       |
| 2  | 教職への道                | ①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。   |
| 3  | 求められる教師像             | 教師（学校）をとりまく社会の状況から、求められる教師像とそのための資質能力を理解する。                         |
| 4  | 教師の仕事（1）～小学校～        | 小学校教諭の1日（業務内容）を理解する。                                                |
| 5  | 教師の仕事（2）～幼稚園～        | 幼稚園教諭の1日（業務内容）を理解する。                                                |
| 6  | 教師の仕事（3）～中学校・特別支援学校～ | 中学校・高等学校・特別支援学校教諭の1日（業務内容）を理解する。                                    |
| 7  | 資質能力の向上をめざした研修       | 教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。                                             |
| 8  | 教員の身分と服務             | 服務の根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。                           |
| 9  | 学級経営                 | 学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。                                        |
| 10 | 生徒指導                 | 生徒指導上の諸問題と指導のあり方（予防と対処）を理解する。                                       |
| 11 | 学校教育と社会教育            | ①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。 |
| 12 | 教員採用試験               | ①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。                  |
| 13 | 教育実習                 | 教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。        |
| 14 | 教員の問題行動とメンタルヘルス      | ①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。 |
| 15 | まとめ                  | ①これまでの学びをふり振り返り、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験合格に向けて、見通しをもつ。                |

| 科目コード | 24104           |      | 区 分  | 専門基礎科目 |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
|-------|-----------------|------|------|--------|---|------|-------------------|------|----|
| 授業科目名 | 異文化コミュニケーション論   |      | 担当者名 | 細井 健   |   |      | ○                 |      |    |
| 配当年次  | カリキュラムにより異なります。 | 配当学期 | 前期   | 単位数    | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

### ＜授業の概要＞

グローバル化が進む現在、異文化を背景として持つ相手と接触する機会も増えています。この授業は、まず自分を知り、次に相手の文化を理解し尊重する態度を身につけることを目的とします。そして様々な事例を読んだり、活動や実践に取り組んだりすることから、異文化理解および異文化コミュニケーションの意義や方法を学びます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。

### ＜授業の到達目標＞

①異なる文化背景を持つ人々と協力できる関係をどのようにすれば築けるかが理解できる。 ②相手の文化を知り、それを尊重する態度を身に付ける。 ③自分の持つ価値、支える背景文化に気づき、世界（特に英語圏）の価値観や、その背景となる社会・文化が理解できる。

### ＜授業の方法＞

(1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3) ディスカッション（問いに対する回答） (4) 省察活動（まとめと発表）

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト購読や各授業テーマにおける自身の体験・経験の掘り起こしを予習とします（1時間程度）。授業後は学んだ内容をどのように生かし、実践していきたいかをレポートにまとめます（1時間程度）。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー1 「確かな世界観の下、グローバルな視点と知識を持ち、多文化・異文化について理解する能力を身に付けている」に関連づけられています。グローバル社会に対応できる総合的な実践力のある人を育成するための基礎科目であり、初年次生に対し、参加型授業を通して、異文化理解を深め、異文化コミュニケーション能力を伸ばすための機会を提供します。受講者多数の場合は英語教員免許または日本語教員資格の取得予定者、および受講意欲の高い学生を優先します。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題への取り組み・意欲30%、レポート課題 50%、まとめテスト 20%

### ＜教科書＞

原沢伊都夫（2013）  
異文化理解入門  
研究社

### ＜参考書＞

特になし

### ＜授業計画＞

| 回  | テーマ           | 授 業 内 容                                                     |
|----|---------------|-------------------------------------------------------------|
| 1  | イントロダクション     | 授業の進め方と異文化理解の意義について考える。                                     |
| 2  | 文化とは①         | 文化の定義について学び、自分の文化を振り返る。                                     |
| 3  | 文化とは②         | 私たちが属している文化に気づき、そこから異文化とは何か考える。                             |
| 4  | 異文化適応①        | 私たちが異文化の中におかれた時、どのように適応していくのか、異文化適応の理論を学ぶ。                  |
| 5  | 異文化適応②        | ゲームを行い、異文化に接触したときの疑似体験をする。その体験から感じたことを話し合う。                 |
| 6  | 視点を変える        | いくつかの活動を通じて、視点を変える練習をする。                                    |
| 7  | ステレオタイプ       | 自分が持っている固定観念に気付く活動を行う。また、固定観念を持つ理由を学ぶ。                      |
| 8  | 差別と異文化理解      | DVDを見て、差別が起こる原因について考える。                                     |
| 9  | 世界の価値観        | 様々な価値観について知り、それについて考える。自分の価値観と他者の価値観を比較する。                  |
| 10 | 異文化トレーニング     | 異文化を理解するトレーニングを1つ体験し、異文化理解の方法を知る。                           |
| 11 | 異文化受容         | 異文化を受け入れるプロセスを学び、自分の異文化受容度を内省する。                            |
| 12 | 自分を知る         | 自分を知るための簡単なテストや活動を行う。授業の最後に今日知った自分について発表する。                 |
| 13 | 非言語コミュニケーション  | 非言語コミュニケーションにはどのようなものがあるか学び、自分はどのような非言語コミュニケーションをしているか内省する。 |
| 14 | コミュニケーションスタイル | 自分のコミュニケーションスタイルを知る。また、相手を尊重するコミュニケーションの方法を考える。             |
| 15 | まとめ           | 多文化共生社会に参画するために、異文化理解・異文化コミュニケーションを役立てるとは。                  |

| 科目コード | 65020     |      | 区 分  | 専門基礎 |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
|-------|-----------|------|------|------|---|------|-------------------|------|----|
| 授業科目名 | 実践英文法（基礎） |      | 担当者名 | 井上 聡 |   |      | ○                 |      |    |
| 配当年次  | 1         | 配当学期 | 前期   | 単位数  | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

### <授業の概要>

本授業の目的は、大学入試の基礎となる英文法への理解を深め、英語学習の方略を固めることです。教材としてドラゴンイングリッシュを使用し、事前課題（ノートまとめ）に基づいてジグソー法とグループワークを行い、「わかる」「わからない」を区別します。課題量を多いですが、活発な意見交流を通して、高校既習内容の学び直しを図ります。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。中高英語免許取得を主専攻とする学生にとっても、副専攻とする学生にとっても、アクティブ・ラーニングの醍醐味を体験できる貴重な機会となるでしょう。

### <授業の到達目標>

1. 事前課題（調べ学習）に粘り強く取り組むことができる。| 2. 活発な意見交流を通してグループワークに貢献できる。| 3. 理解度確認テストで高いスコアを残すことができる。

### <授業の方法>

1. 協同学習（テスト演習）（40分）| 2. 協同学習（ジグソー法）（40分）| 3. 意見交換（10分）|※授業関連の活動にはすべてGoogle Classroomで行います。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：ドラゴンイングリッシュのノートまとめ（スクリーンショットの提出）（90分程度）|復習：理解度確認テスト＋意見交換（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー②（専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている。）と関連付けられています。単に知識を習得するだけでなく、自分自身でも英文法の学び直しを図り、他者への説明方法や楽しく学ぶためのトレーニング法の習得に取り組みしましょう。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、小テスト 40%、グループワーク 10%、意見交換 20%

### <教科書>

竹岡広信（2018年3月）  
ドラゴン・イングリッシュ（必修英文法100）  
講談社

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

| 回  | テーマ              | 授 業 内 容                    |
|----|------------------|----------------------------|
| 1  | オリエンテーション        | 授業の進め方、2種類の教材の使い方          |
| 2  | 大学入試問題の理解と説明(1)  | 001～008（冠詞・名詞・動詞）          |
| 3  | 大学入試問題の理解と説明(2)  | 009～016（動詞）                |
| 4  | 大学入試問題の理解と説明(3)  | 017～024（代名詞）               |
| 5  | 大学入試問題の理解と説明(4)  | 025～032（語順・受動態・動名詞）        |
| 6  | 大学入試問題の理解と説明(5)  | 033～040（動名詞・to不定詞・分詞）      |
| 7  | 大学入試問題の理解と説明(6)  | 041～048（分詞・接続詞）            |
| 8  | 大学入試問題の理解と説明(7)  | 049～056（接続詞・同格・特殊構文・関係代名詞） |
| 9  | 大学入試問題の理解と説明(8)  | 057～064（関係代名詞・関係副詞・時制）     |
| 10 | 大学入試問題の理解と説明(9)  | 065～073（時制・助動詞）            |
| 11 | 大学入試問題の理解と説明(10) | 074～082（助動詞・仮定法）           |
| 12 | 大学入試問題の理解と説明(11) | 083～091（仮定法・形容詞・副詞・比較）     |
| 13 | 大学入試問題の理解と説明(12) | 092～100（比較）                |
| 14 | 大学入試問題の理解と説明(13) | 総合演習(1)                    |
| 15 | まとめ              | 総合演習(2)                    |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

| 科目コード | 65021     |      | 区 分  | 専門基礎科目 |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
|-------|-----------|------|------|--------|---|------|-------------------|------|----|
| 授業科目名 | 実践英文法（応用） |      | 担当者名 | 井上 聡   |   |      | ○                 |      |    |
| 配当年次  | 1         | 配当学期 | 後期   | 単位数    | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

本授業は、実践英文法（基礎）のステップ講座であり、ドラゴン・イングリッシュの発展編を用いて、難度の滝英文の解析力と他者への説明力を養います。授業方法は基礎編とほぼ同じで、事前課題（ノートまとめ）、テスト演習、協同学習、意見交換の順に行います。なお、この授業はブレンド型で行われますので、必ずPCを持参して臨んでください。高等学校で英語指導を行うためのスキルを養う好機となるでしょう。

## <授業の到達目標>

1. 事前課題に粘り強く取り組み、詳細なノートを作成・提出できる。| 2. 協同学習で交流を図り、グループに貢献できる。| 3. 意見交換の場で学びを振り返り、事後の確認テストで高スコアを残すことができる。

## <授業の方法>

1. 協同学習①（テスト演習）（40分程度）| 2. 協同学習②（ジグソー法）（40分程度）| 3. 意見交換（5分）

## <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：ドラゴン・イングリッシュのノートまとめ（スクリーンショットを提出）（90分程度）| 復習：理解度確認テスト＋意見交換（30分程度）

## <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のDP⑤（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている）と関連付けられています。ICTを活用したアクティブラーニングを通して、難度の高い文法項目への理解を深め、他者にわかりやすく説明する力を身につけましょう。

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、理解度確認テスト 40%、意見交換 30%

## <教科書>

特になし

## <参考書>

特になし

## <授業計画>

| 回  | テーマ         | 授 業 内 容            |
|----|-------------|--------------------|
| 1  | オリエンテーション   | シラバス説明、デジタル協同学習の練習 |
| 2  | 英文の構造解析(1)  | 文型                 |
| 3  | 英文の構造解析(2)  | 動詞の活用・基本時制・進行形     |
| 4  | 英文の構造解析(3)  | 完了形                |
| 5  | 英文の構造解析(4)  | 助動詞                |
| 6  | 英文の構造解析(5)  | 態                  |
| 7  | 英文の構造解析(6)  | 不定詞                |
| 8  | 英文の構造解析(7)  | 動名詞                |
| 9  | 英文の構造解析(8)  | 分詞                 |
| 10 | 英文の構造解析(9)  | 名詞・冠詞・代名詞          |
| 11 | 英文の構造解析(10) | 形容詞・副詞             |
| 12 | 英文の構造解析(11) | 比較                 |
| 13 | 英文の構造解析(12) | 関係詞(1)             |
| 14 | 英文の構造解析(13) | 関係詞(2)             |
| 15 | 期末試験 ※解説あり  | 全範囲                |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

| 科目コード | 65022          |      | 区 分  | 専門基礎科目 |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
|-------|----------------|------|------|--------|---|------|-------------------|------|----|
| 授業科目名 | リーディング・スキル（基礎） |      | 担当者名 | 井上 聡   |   |      | ○                 |      |    |
| 配当年次  | 1              | 配当学期 | 後期   | 単位数    | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検 2 級レベルの英文の速読・精読力や英検準 1 級レベルの語彙力・構文解析力を強化します。Google Classroomを通して配信された事前課題（課題の英文と授業動画）に取り組み、理解度確認テストを受験し、フィードバックに基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質、学びの整理の 4 点に基づいて成績評価を行います。

## <授業の到達目標>

1. 授業動画を活用し、事前課題（英検 2 級の長文）に粘り強く取り組むことができる。| 2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。| 3. 事前課題と理解度確認テストを通しての学びを「意見交換」の場で言語化できる。 | ※授業中のデータ共有はすべてGoogle Classroomで行います。

## <授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業日の前日 | 2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ | 3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

## <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）| 復習：理解度確認テストの受験（1時間程度）

## <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のDP 2（専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている）と関連付けられています。授業動画を活用しつつ、難度の高い英文解釈に取り組みながら、自律的学習者としての意識化を図りましょう。

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 40%、意見交換 15%、学びの整理 15%

## <教科書>

特に指定なし

## <参考書>

特に指定なし

## <授業計画>

| 回  | テーマ                            | 授 業 内 容                 |
|----|--------------------------------|-------------------------|
| 1  | Generations Helping Each Other | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 2  | Metal Foam                     | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 3  | A New Type of Chocolate        | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 4  | A New Way to Use a Computer    | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 5  | Review 1                       | Review Test_01 実力テスト_01 |
| 6  | The Price of a Song            | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 7  | A Model Tourist Town           | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 8  | The Mysterious Mummies         | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 9  | Female Pioneers                | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 10 | Review 2                       | Review Test_02 実力テスト_02 |
| 11 | Counting Every Children        | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 12 | Smart Stickers                 | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 13 | Bibliotherapy                  | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 14 | Bringing Back Ancient Plants   | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 15 | Review 3                       | Review Test_03 実力テスト_03 |

| 科目コード | 24201           | 区 分  | 専門基礎科目 |     |   | 実務経験のある教員等による授業科目 |    |      |    |
|-------|-----------------|------|--------|-----|---|-------------------|----|------|----|
| 授業科目名 | 比較文化論           | 担当者名 | 楠本 信治  |     |   | ○                 |    |      |    |
| 配当年次  | カリキュラムにより異なります。 | 配当学期 | 前期     | 単位数 | 2 | 授業方法              | 講義 | 卒業要件 | なし |

### <授業の概要>

「文化とは何か」というテーマから始め、世界の様々な文化について学ぶ中で、世界から見た日本について考え、「グローバル」や「多文化共生」について考察する。グループワークを通して自分と異なる意見や価値観に触れることで視野が広がるとともに、将来グローバル教育を実践する際に使用する演習等を学ぶことができる。

### <授業の到達目標>

世界の様々な文化についての知識を習得するとともに、アイデンティティを認識した上で、異文化を理解し、多様性を受け入れ、これからの多文化共生社会を生きていく力を身につける。また、将来教員になった際に、児童・生徒の多様な考え方や価値観を受け入れ、一人一人を大切にすることを育む。

### <授業の方法>

各回のテーマについてのパワーポイントを使った講義のあと、グループワークによる意見交換を行う。毎時間、その日のテーマについての事前課題（アンケート）と終了後の事後課題（振り返り）を出す。なお、授業中にGoogle Classroomを活用した演習を行うため、必ずPCかタブレットを持参すること。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマについての「事前課題」と「事後課題」に、1時間程度の学習時間が必要。また、最後の確認テスト及びレポートについては、2時間以上の準備が必要。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のディプロマ・ポリシー1「グローバルな視点と知識を持ち、多文化・異文化について理解する能力」に関連付けられている。この授業を通して、異文化についての理解を深め、将来教員になった際に、グローバル教育を推進できる力を育成する。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「理解度 30%」、「学習意欲 30%」、「確認テスト及び小論文 40%」※Google Classroomを活用した事前課題や意見交換、事後課題で理解度や学習意欲を評価する。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

| 回  | テーマ                 | 授 業 内 容                                        |
|----|---------------------|------------------------------------------------|
| 1  | オリエンテーション           | 自己紹介～「文化」とは何かについての意見交換～授業予定・評価等について            |
| 2  | 異文化理解教育             | 学校における異文化理解教育と国際交流について、各グループ内で体験を共有する          |
| 3  | 異文化体験発表             | グループ代表による異文化体験発表をもとに、異文化理解教育について考える            |
| 4  | 演習「地球の食卓」           | 世界の食生活、食糧問題、環境問題、エネルギー問題等について考える               |
| 5  | 演習「難民問題」            | 世界の難民問題について考える～演習「もしあなたが難民になったら」               |
| 6  | 演習「世界がもし100人の村だったら」 | 英語が国際語になった理由と世界が抱える様々な問題について考える                |
| 7  | 世界を一つに              | 世界を一つにする際の課題（言語、宗教、民族等）と、その解決に向けて自分に何ができるかを考える |
| 8  | 演習「日本代表の条件」         | 日本代表チームの条件から、アイデンティティについて考える                   |
| 9  | 国籍について              | 在日韓国人やハーフの人達の苦しみから「国籍とは何か」について考える              |
| 10 | 国民性について             | エスニック・ジョークから、国民性についての思い込みや偏見について考える            |
| 11 | 世界と日本の慣習            | 世界の慣習について学ぶとともに、外国人から見た日本の慣習について考える            |
| 12 | 演習「ちがいのちがい」         | 「あってもいい／あってはならない」違いから「多文化共生」について考える            |
| 13 | 「グローバル」とは何か         | 「グローバル化」「グローバル人材」や「グローバル教育」について考える             |
| 14 | 多文化共生について           | 全授業の復習～「多文化共生社会をどう生きるか」について考える                 |
| 15 | まとめ                 | 授業内容についての確認テスト及び小論文                            |

|       |       |      |        |     |   |                   |    |      |    |
|-------|-------|------|--------|-----|---|-------------------|----|------|----|
| 科目コード | 24200 | 区 分  | 専門基礎科目 |     |   | 実務経験のある教員等による授業科目 |    |      |    |
| 授業科目名 | 英語文法  | 担当者名 | 井上 聡   |     |   | ○                 |    |      |    |
| 配当年次  | 2     | 配当学期 | 前期     | 単位数 | 2 | 授業方法              | 講義 | 卒業要件 | 選択 |

### <授業の概要>

本授業の目的は、高校入試や大学入試レベルの英文法への理解を深め、中高英語教員として教壇に立つための下地を構築することです。共通テストや関関同立の入試問題レベルの難問に対する理解力を深めるため、この授業はオンデマンド形式で実施されます。筆者の英知と経験を結集して作成されたオリジナル教材とデジタル解説教材を使用し、課題提出、採点・返却、理解度確認テスト、意見交換の順に進めますので、時間管理の上、個人差の解消に役立ててください。学修成果としては、事前課題の精度、小テストのスコア、意見交換の質を求めます。オンデマンド形式の授業ですので、PC必携のうえ、必ず期限を守ってください。まずは、高校生に英語を教えられる程度の学力を積み上げましょう。

### <授業の到達目標>

1. 長時間の事前学習に粘り強く取り組むことができる。| 2. 確認テストで高得点を残すことができる。| 3. 毎回授業後に「学びの振り返り」ができる。

### <授業の方法>

1. 例題・類題演習の提出（90分程度）| 2. 採点・返却| 3. 提出課題の修正（1時間程度）| 4. 理解度確認テスト（30分程度）| 5. 意見交換（10分）|※授業関連の活動についてはすべてGoogle Classroomで行います。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：デジタル教材による予習（2時間程度）※課題の管理はすべてGoogle Classroomで行います。復習：確認テストの準備（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のDP⑤（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている）と関連付けられています。デジタル教材を有効活用し、中学・高校の頃に積み残した文法知識を補完するとともに、教員として相応しい協働性を高めましょう。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

### <教科書>

井上聡（2022年4月3日）

これからの英語教師のための深くて苦い英語文法  
一粒社

### <参考書>

特に指定しない

### <授業計画>

| 回  | テーマ                  | 授 業 内 容 |
|----|----------------------|---------|
| 1  | 高大接続の観点から考える文法理解(1)  | 英文の構造   |
| 2  | 高大接続の観点から考える文法理解(2)  | 意味と語順   |
| 3  | 高大接続の観点から考える文法理解(3)  | 基本時制    |
| 4  | 高大接続の観点から考える文法理解(4)  | 完了時制    |
| 5  | 高大接続の観点から考える文法理解(5)  | 法助動詞    |
| 6  | 高大接続の観点から考える文法理解(6)  | 仮定法     |
| 7  | 高大接続の観点から考える文法理解(7)  | 文末焦点と態  |
| 8  | 高大接続の観点から考える文法理解(8)  | 不定詞     |
| 9  | 高大接続の観点から考える文法理解(9)  | 動名詞     |
| 10 | 高大接続の観点から考える文法理解(10) | 分詞      |
| 11 | 高大接続の観点から考える文法理解(11) | 比較      |
| 12 | 高大接続の観点から考える文法理解(12) | 関係詞(1)  |
| 13 | 高大接続の観点から考える文法理解(13) | 関係詞(2)  |
| 14 | 高大接続の観点から考える文法理解(14) | 接続詞と前置詞 |
| 15 | 高大接続の観点から考える文法理解(15) | 期末試験    |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

| 科目コード | 65023          |      | 区 分  | 専門基礎科目 |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
|-------|----------------|------|------|--------|---|------|-------------------|------|----|
| 授業科目名 | リーディング・スキル（応用） |      | 担当者名 | 井上 聡   |   |      | ○                 |      |    |
| 配当年次  | 2              | 配当学期 | 後期   | 単位数    | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検準1級レベルの英文の速読・精読力や英検1級レベルの語彙・構文解析力を強化します。Google Classroomを通して配信された事前課題（課題の英文と授業動画）に取り組み、理解度確認テストを受験し、フィードバックに基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の3点に基づいて成績評価を行います。

## <授業の到達目標>

1. 授業動画を活用し、事前課題（英検準1級の長文）に粘り強く取り組むことができる。| 2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。| 3. 事前課題と理解度確認テストを通しての学びを「意見交換」の場で言語化できる。| ※授業中のデータ共有はすべてGoogle Classroomで行います。

## <授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業前日まで | 2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ | 3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

## <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）| 復習：理解度確認テストの受験（30分程度）＋意見交換

## <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のDP⑤（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている）と関連付けられています。授業動画を活用しつつ、難度の高い英文解釈に取り組みながら、自律的学習者としての習慣を形成しましょう。

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 40%、意見交換 30%

## <教科書>

特に指定なし

## <参考書>

特になし

## <授業計画>

| 回  | テーマ                                 | 授 業 内 容                 |
|----|-------------------------------------|-------------------------|
| 1  | "Drink Responsibly" Messages        | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 2  | Dog Colors                          | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 3  | Lightning Strikes and Ships         | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 4  | Minimalism: Is Less Really More?    | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 5  | Review 1                            | Review Test_01 実力テスト_01 |
| 6  | The Thaba-Tseka Development Project | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 7  | The Uncertainties of Celiac Disease | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 8  | REDD+                               | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 9  | Summer Jobs                         | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 10 | Review 2                            | Review Test_02 実力テスト_02 |
| 11 | Stranded Whales                     | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 12 | Airplanes and Germs                 | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 13 | Young People and Sports             | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 14 | Medical Voluntourism                | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 15 | Review 3                            | Review Test_03 実力テスト_03 |

| 科目コード | 24303  | 区 分  | 専門基礎科目 |     |   | 実務経験のある教員等による授業科目 |    |      |    |
|-------|--------|------|--------|-----|---|-------------------|----|------|----|
| 授業科目名 | 上級英語文法 | 担当者名 | 井上 聡   |     |   | ○                 |    |      |    |
| 配当年次  | 3      | 配当学期 | 前期     | 単位数 | 2 | 授業方法              | 講義 | 卒業要件 | 選択 |

### <授業の概要>

本授業の目的は、大学入試と密接な関わりのある英文法を深く理解し、英研準1級以上、TOEICスコア785点以上の英語力を身に着けることです。デジタル教材とオリジナルテキストを活用して事前に問題点を明らかにし、新たなデジタル教材を活用して課題を修正し、オンライン試験を通して理解度を高めましょう。学習成果としては、デジタル教材の活用力、協働性、理解力を求めます。なお、この授業はオンデマンド型で行いますので、課題提出やテスト受験等の期限を必ず守ってください。

### <授業の到達目標>

1. 事前学習に粘り強く取り組み、「分かること」と「分からないこと」を区別できる。| 2. デジタル教材を使用して、間違った問題を修正できる。| 3. 確認テストや定期試験で8割以上の正答率を残すことができる。

### <授業の方法>

1. 事前課題（テキスト8ページの予習）（2時間程度）| 2. 採点・返却| 3. 課題の修正（1時間程度）| 4. 理解度家訓テスト（30分程度）| 5. 意見交換（5分）|※授業関連の活動はすべてGoogle Classroomで行います。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：デジタル教材を活用した事前課題（8ページ）の提出（3時間程度）| 復習：課題の修正？テストの受験＋意見交換（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー⑧（修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取り組み、解決できる能力を身に付けている。）と関連付けられています。デジタル教材を活用しつつ、難度の高い課題に粘り強く取り組むことによって、単に大学受験のための知識を得るだけでなく、文法問題の解法力と説明力を磨くとともに、自律的学習者としての習慣形成を図りましょう。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

### <教科書>

井上聡（2022年4月）

上級英語文法：攻略ポイント210

一粒書房

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

| 回  | テーマ                | 授 業 内 容                         |
|----|--------------------|---------------------------------|
| 1  | オリエンテーション          | シラバス説明、シミュレーション（教科書・デジタル教材の使い方） |
| 2  | 動詞の語法① 動詞の語法②      | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 3  | 動詞の時制 法助動詞         | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 4  | 態の変換 不定詞①          | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 5  | 不定詞② 分詞            | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 6  | 動名詞 関係詞①           | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 7  | 関係詞② 仮定法           | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 8  | 比較表現① 比較表現②        | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 9  | 名詞の語法 代名詞の語法       | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 10 | 形容詞の語法 副詞の語法       | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 11 | 接続詞① 接続詞②          | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 12 | 前置詞① 前置詞②          | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 13 | 疑問・否定・倒置・強調・一致 まとめ | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 14 | 総復習                | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 15 | 期末試験               | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |

| 科目コード | 65041          |      | 区 分  | 専門基礎科目 |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
|-------|----------------|------|------|--------|---|------|-------------------|------|----|
| 授業科目名 | リーディング・スキル(実践) |      | 担当者名 | 井上 聡   |   |      | ○                 |      |    |
| 配当年次  | 3              | 配当学期 | 後期   | 単位数    | 2 | 授業方法 | 演習                | 卒業要件 | 選択 |

### <授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検 1 級レベルの英文の速読・精読力と語彙・構文解析力を強化します。Google Classroomを通して配信された事前課題（課題の英文と授業動画）に取り組み、理解度確認テストを受験し、フィードバックに基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質、学びの整理の 3 点に基づいて成績評価を行います。

### <授業の到達目標>

1. 授業動画を活用し、事前課題（英検準 1 級の長文）に粘り強く取り組むことができる。| 2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。| 3. 事前課題と理解度確認テストを通しての学びを「意見交換」の場で言語化できる。| ※授業中のデータ共有はすべてGoogle Classroomで行います。

### <授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業前日まで | 2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ| 3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）| 復習：理解度確認テストの準備（30分程度）＋意見交換（10分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のDP⑤（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている）と関連付けられています。授業動画を活用しつつ、難度の高い英文解釈に取り組みながら、自律的学習者としての習慣を形成しましょう。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 40%、意見交換 30%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

| 回  | テーマ                                 | 授 業 内 容                 |
|----|-------------------------------------|-------------------------|
| 1  | "Drink Responsibly" Messages        | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 2  | Dog Colors                          | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 3  | Lightning Strikes and Ships         | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 4  | Minimalism: Is Less Really More?    | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 5  | Review 1                            | Review Test_01 実力テスト_01 |
| 6  | The Thaba-Tseka Development Project | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 7  | The Uncertainties of Celiac Disease | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 8  | REDD+                               | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 9  | Summer Jobs                         | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 10 | Review 2                            | Review Test_02 実力テスト_02 |
| 11 | Stranded Whales                     | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 12 | Airplanes and Germs                 | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 13 | Young People and Sports             | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 14 | Medical Voluntourism                | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換      |
| 15 | Review 3                            | Review Test_03 実力テスト_03 |

| 科目コード | 31400      | 区 分  | コア科目   | 実務経験のある教員等による授業科目 |   |      |    |      |    |
|-------|------------|------|--------|-------------------|---|------|----|------|----|
| 授業科目名 | 学校経営と学校図書館 | 担当者名 | 浅田 栄里子 | ○                 |   |      |    |      |    |
| 配当年次  | 4          | 配当学期 | 後期     | 単位数               | 2 | 授業方法 | 講義 | 卒業要件 | 選択 |

### ＜授業の概要＞

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

### ＜授業の到達目標＞

司書教諭として学校図書館をどのように運営していくかについて、その具体的な方法を理解することができる。また、学校図書館を活用して行う読書活動や学習等について運営計画を立案するとともに、具体的な指導を指導者の立場として展開することができる。

### ＜授業の方法＞

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

あらかじめ資料に目を通しておき、事前課題を提出する。（1時間程度）|授業後には本時に学習した内容の整理定着のための事後課題を提出する。（1時間程度）

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

司書教諭として学校図書館の機能を理解した上で、実際の図書館運営や学校図書館を活用した学習の展開を身につけることにより、学校図書館に関する専門性と実践力を備えた司書教諭の育成を目指す。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」と関連付けられている。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・態度 30%、課題および提出物 30%、特別課題 40%に基づき評価する。

### ＜教科書＞

「探究 学校経営と学校図書館」編集委員会編著  
学校経営と学校図書館  
全国学校図書館協議会

### ＜参考書＞

### ＜授業計画＞

| 回  | テーマ               | 授 業 内 容                                    |
|----|-------------------|--------------------------------------------|
| 1  | ガイダンス・学校教育法令と学校経営 | 授業のガイダンスと、学校経営がどのような法令等に基づいて策定されているかを理解する。 |
| 2  | 教育法令と学校図書館        | 学校教育にかかる様々な法令と学校図書館の位置づけを理解する。             |
| 3  | 学校図書館と学習指導要領      | 学習指導要領から学校図書館の位置づけを探し、教育課程とのかかわりを理解する。     |
| 4  | 学校図書館の機能と図書標準     | 学校図書館メディアの種類と、蔵書の標準を知り、学校図書館の機能について考える。    |
| 5  | 学校図書館の運営？         | 学校図書館運営に関わる業務を理解する。                        |
| 6  | 学校図書館の運営？         | 学校図書館運営計画を作成する？                            |
| 7  | 学校図書館の運営？         | 学校図書館運営計画を作成する？                            |
| 8  | 学校図書館の運営？         | 学校図書館運営計画を作成する？                            |
| 9  | 学校図書館の運営？         | 図書館だよりを作成する？                               |
| 10 | 学校図書館の運営？         | 図書館だよりを作成する？                               |
| 11 | 学校図書館の運営？         | 図書館だよりを作成する？                               |
| 12 | 学校図書館の運営？         | 学校図書館展示の工夫？                                |
| 13 | 学校図書館の運営？         | 学校図書館展示の工夫？                                |
| 14 | 学校図書館の運営？         | 学校図書館展示の工夫？                                |
| 15 | まとめ               | 学校における学校図書館活用の現状と課題を理解し、図書館運営の心構えをつくる。     |

| 科目コード | 31401        | 区 分  | コア科目        | 実務経験のある教員等による授業科目 |   |      |    |      |    |
|-------|--------------|------|-------------|-------------------|---|------|----|------|----|
| 授業科目名 | 学校図書館メディアの構成 | 担当者名 | 木戸 和彦、浅田栄里子 | ○                 |   |      |    |      |    |
| 配当年次  | 4            | 配当学期 | 前期          | 単位数               | 2 | 授業方法 | 講義 | 卒業要件 | 選択 |

### <授業の概要>

学校図書館は、読書センター・学習センター及び情報センターとしての機能を有している。学校図書館がその機能を十分発揮するためには、学校図書館メディアの構成に関して、収集、組織化、保存、提供などについて司書教諭が理解することが必要である。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。また、この科目は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

### <授業の到達目標>

①学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。②学校図書館メディアの選択と収集・構築について理解することができる。③学校図書館メディアの組織化を理解することができる。

### <授業の方法>

基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスを参考に当日の授業内容を確認し、参考書またはWeb等で予備知識を学習しておくこと（予習30分程度）。毎回の講義時に、レポート課題を出題するので、次回の講義までに自力で解答しておくこと（復習60分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学校図書館メディアの構成を学ぶことにより、深い専門性と実践力を身に付けるだけでなく、子ども達への指導力を身に付ける。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー 1「子どもの学習状況を把握し教科内容等を理解した上で授業を構成し実践するための基礎的基本的素養」及び2「発達等の子ども理解に基づいて、的確な学習指導や、生徒指導、学級経営を実践する力」と関連付けられている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 20%、レポート課題 30%、テスト 50%に基づき評価する。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

全国学校図書館協議会監修（2017.9.1）

学校図書館必携

悠光堂

### <授業計画>

| 回  | テーマ             | 授 業 内 容                         |
|----|-----------------|---------------------------------|
| 1  | 学校図書館メディアの意義    | 講義ガイダンスを含む                      |
| 2  | 学校図書館メディアについて   | 学校図書館メディアの種類と特性                 |
| 3  | 学校図書館メディアについて   | 学校図書館メディアの選択と情報源（資料の選択、資料収集の方針） |
| 4  | 学校図書館メディアについて   | 学校図書館メディアの選択と情報源（収集のための情報源）     |
| 5  | メディアコレクションの形成   | 蔵書構築、蔵書評価について                   |
| 6  | 学校図書館の責務について    | 学校図書館の役割について                    |
| 7  | 学校図書館メディアの組織化   | 分類の意義と機能                        |
| 8  | 学校図書館メディアの組織化   | 日本十進分類法について                     |
| 9  | 学校図書館メディアの組織化   | 件名標目表について                       |
| 10 | 学校図書館メディアの組織化   | 日本目録規則について                      |
| 11 | 学校図書館メディアの組織化   | 目録の機械化について                      |
| 12 | 学校図書館メディアの組織化   | 分類と件名作業の実際                      |
| 13 | 多様な学習環境とメディアの配置 | 学校図書館メディアの配置の意義                 |
| 14 | 多様な学習環境とメディアの配置 | 学校図書館メディアの配置の演習                 |
| 15 | まとめ・確認テスト       | 学校図書館メディアの構成の展望                 |

| 科目コード | 31403     | 区 分  | コア科目   | 実務経験のある教員等による授業科目 |   |      |    |      |    |
|-------|-----------|------|--------|-------------------|---|------|----|------|----|
| 授業科目名 | 読書と豊かな人間性 | 担当者名 | 赤松 久美子 | ○                 |   |      |    |      |    |
| 配当年次  | 4         | 配当学期 | 後期     | 単位数               | 2 | 授業方法 | 講義 | 卒業要件 | 選択 |

### <授業の概要>

読書は人間形成において重要な意味を持つものであり、思考力の育成、豊かな心の育み、人間性の発達にかけがえのない営みでもある。読書という活動は、学習者自身の主体性の有無によって成立する。そのために校内の読書センターと積極的な読書推進活動の展開により、児童・生徒の読書の活性化を図る必要がある。そこで、本授業では、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導および活動の方法の体得を目指す。

### <授業の到達目標>

1. 読書の目的と役割について理解することができる。| 2. 読書指導の基礎や基本について理解することができる。| 3. 目的に応じた多様な読書活動について理解を深め、実践することができる。

### <授業の方法>

教科書に基づき授業を進めるが、グループワークや体験的な取り組みも行うので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の前には、あらかじめ教科書に目を通しておく。授業後には本時に学習した内容について、問題を解いたり内容について感想を持ったりすることで学習の定着を図る。（1時間程度） また、大学図書館や公共図書館を訪れ、普段から本（特に児童書・YA図書）に親しむようにする。（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、教員免許を取得している（もしくは、取得予定）者のみに与えられる学校図書館司書教諭のライセンス講座の一つである。よって、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導及び活動の方法体得がなされることが、卒業認定や学位授与と密接に関係している。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている」と関連付けられている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

### <教科書>

「探究 学校図書館学」編集委員会  
探究 学校図書館学4「読書と豊かな人間性」  
全国学校図書館協議会

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

| 回  | テーマ                   | 授 業 内 容                                        |
|----|-----------------------|------------------------------------------------|
| 1  | 授業ガイダンス               | 講義ガイダンスと人間形成に重要な意味をもつ読書について理解する。               |
| 2  | 読書教育の系譜               | 日本の読書教育の変遷を理解する。                               |
| 3  | 読書指導と学校図書館            | 学校図書館と学校での読書指導について、法令も含めてその関係性を理解する。           |
| 4  | 子どもの読書環境              | 子どもの読書の実態と、学校図書館・公共図書館の現状について理解する。             |
| 5  | 発達段階に応じた読書指導          | 読書能力の発達と、発達段階に応じた読書指導のあり方について、理解する。            |
| 6  | 子どもと本を結ぶための方法?        | 読み聞かせとブックトーク、ストーリーテリング                         |
| 7  | 子どもと本を結ぶための方法?        | 読書感想文と読書感想画、朝の10分間読書                           |
| 8  | 子どもと本を結ぶための方法?        | 読書へのアニメーションとビブリオバトル                            |
| 9  | 子どもと本を結ぶための方法?        | 読書会とリテラチャーサークル                                 |
| 10 | 子どもと本を結ぶための方法?        | 紙芝居と読書集会、読書郵便、POPと本の帯の作成                       |
| 11 | 各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導 | 各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導について、理解する。                |
| 12 | 読書活動の実際?              | 小学校、中学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。                  |
| 13 | 読書活動の実際?              | 高等学校、特別支援学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。              |
| 14 | 読書活動の推進と司書教諭・学校司書     | 司書教諭、学校司書の職務と読書指導の推進について理解する。                  |
| 15 | まとめ                   | 読書についてその役割を理解し、読書指導の基礎基本について実践的な活動としての理解を整理する。 |

| 科目コード | 31402      | 区 分  | コア科目   | 実務経験のある教員等による授業科目 |   |      |    |      |    |
|-------|------------|------|--------|-------------------|---|------|----|------|----|
| 授業科目名 | 学習指導と学校図書館 | 担当者名 | 赤松 久美子 | ○                 |   |      |    |      |    |
| 配当年次  | 4          | 配当学期 | 後期     | 単位数               | 2 | 授業方法 | 講義 | 卒業要件 | 選択 |

### ＜授業の概要＞

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

### ＜授業の到達目標＞

司書教諭として学校図書館を活用して行う学習（探究型学習・情報活用能力の育成）等について、指導者の立場として展開する方法を理解することができる。

### ＜授業の方法＞

教科書に基づき授業を進めるが、グループワークや体験的な取り組みも行うので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

資料等を用いる授業の前には、あらかじめ資料に目を通しておく。（1時間程度）授業後には本時に学習した内容について、問題を解いたり演習の内容について個人で再度行ったりして学習の定着を図る。（1時間程度）

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

司書教諭として学校図書館の機能を理解した上で、実際の図書館運営や学校図書館を活用した学習の展開を身につけることにより、学校図書館に関する専門性と実践力を備えた司書教諭の育成を目指す。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」と関連付けられている。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％、レポート・課題60％により総合的に評価する。

### ＜教科書＞

「探求 学校図書館学」編集委員会（2020.9.25）  
 探究 学校図書館学3「学習指導と学校図書館」  
 全国学校図書館協議会

### ＜参考書＞

文部科学省（2018/2/28）  
 小学校学習指導要領解説 総則編  
 東洋館出版社

### ＜授業計画＞

| 回  | テーマ               | 授 業 内 容                             |
|----|-------------------|-------------------------------------|
| 1  | ガイダンス・学校教育と学校図書館  | 学校教育における学校図書館の役割の概要を理解する。           |
| 2  | 学び方の指導の実際1        | 学校図書館の使い方指導の仕方を理解する。                |
| 3  | 学び方の指導の実際2        | 図鑑の使い方の指導の仕方を理解する。                  |
| 4  | 学び方の指導の実際3        | 年鑑・百科事典の使い方の指導の仕方を理解する。             |
| 5  | 学び方の指導の実際4        | 新聞の活用の指導の仕方を理解する。                   |
| 6  | 学び方の指導の実際5        | インターネットの利用の指導の仕方を理解する。              |
| 7  | 学習指導に生きるブックトーク    | ブックトークのやり方とその効用について理解する。            |
| 8  | 学習指導に生きるポップ       | ポップの作成方法とその効用について理解する。              |
| 9  | 教科学習における学校図書館の活用1 | 国語科における学校図書館の活用について理解する。            |
| 10 | 教科学習における学校図書館の活用2 | 社会科・理科における学校図書館の活用について理解する。         |
| 11 | 総合的な学習と学校図書館      | 総合的な学習の時間における学校図書館の活用について理解する。      |
| 12 | 学校図書館と合理的配慮       | 学校教育における合理的配慮の必要性和学校図書館の役割について理解する。 |
| 13 | 司書教諭と学校図書館司書の役割   | 学習指導における司書教諭と学校図書館司書の役割と連携について理解する。 |
| 14 | これからの学校図書館の在り方    | 先進的な学校図書館の事例について理解する。               |
| 15 | まとめ               | 期末テストと解説                            |

| 科目コード | 21204       | 区 分  | 専門基礎科目 | 実務経験のある教員等による授業科目 |   |      |    |      |    |
|-------|-------------|------|--------|-------------------|---|------|----|------|----|
| 授業科目名 | 英語科教育法Ⅰ(基礎) | 担当者名 | 井上 聡   | ○                 |   |      |    |      |    |
| 配当年次  | 2           | 配当学期 | 前期     | 単位数               | 2 | 授業方法 | 講義 | 卒業要件 | 選択 |

## &lt;授業の概要&gt;

本授業の目的は、英語科教育の過去と現在について理解を深め、これからの英語教育の方向性について自身の教育観を醸成することです。そのような資質を高めるため、本授業では、グループワークを軸として、英語教育理論、言語活動、教育実践に関する討論・発表が中心となります。事前課題の「問い」を通して問題を発見し、他者との意見交換を通して問題を解決し、プレゼンテーションや相互評価を通して、英語教師としての資質・能力を高めましょう。学修成果としては、協働性、批判的思考力、省察力、デジタル活用力を求めます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。中高英語免許取得を主専攻とする学生はもちろん、副専攻とする学生を力強く支援したいと考えています。

## &lt;授業の到達目標&gt;

1. 英語科教育の専門用語を深く理解し、体系化できる。| 2. 協同学習に主体的に参加し、多様な役割を担いつつ、グループ・ワークに貢献できる。| 3. 未来の英語教師として、自身の意見を適切かつ的確に発信できる。

## &lt;授業の方法&gt;

1. 協同学習① グループワークによる教え合い(20分) | 2. 解説(20分) | 3. 協同学習② グループによるディスカッション(30分) | 4. プレゼンテーションと相互評価(20分) | ※授業関連の活動はすべてGoogle Classroomで行います。

## &lt;準備学習等(予習・復習)&gt; ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：問いに対する回答（ノートのスクリンショットを提出）（90分程度）| 復習：理解度確認テスト（Google Forms）＋意見交換（30分程度）

## &lt;卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連&gt;

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー⑤（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている）と関連付けられています。単に知識を習得するだけでなく、汎用的技能（論理思考、協働性、ICT活用力等）を磨きつつ、英語科教育の課題を発見し、独自の解決策を提案できるよう、主体的に取り組みましょう。

## &lt;成績評価方法&gt; ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、小テスト 20%、プレゼンテーション 20%、意見交換 10%、期末試験 20%

## &lt;教科書&gt;

JACET教育問題研究会（2017年11月30日）

行動志向の英語科教育の基礎と実践－教師は成長する－  
三修社

## &lt;参考書&gt;

特に指定なし

## &lt;授業計画&gt;

| 回  | テーマ               | 授 業 内 容                          |
|----|-------------------|----------------------------------|
| 1  | オリエンテーション         | シラバスの説明、シミュレーション（事前課題、グループワーク）   |
| 2  | 外国語教育の目的と意義       | 日本の外国語教育の方向性、CEFRの言語教育観          |
| 3  | 英語教育課程            | 教育課程と学習指導要領、日本の英語教育課程の今後の方向性     |
| 4  | 第二言語習得と教授法        | SLA研究からの知見、教授法                   |
| 5  | 学習者論              | 言語習得とは、自律と自立、学習者要因、英語学習に成功する学習者  |
| 6  | 英語教師論             | 教員として求められる資質・能力、言語教師の役割、英語教師の成長  |
| 7  | プロジェクト学習①         | 個人プレゼンテーション                      |
| 8  | リスニングリーディング       | 基本概念とリスニング指導基本概念とリーディング指導        |
| 9  | スピーキングライティング      | 基本概念とスピーキング指導基本概念とライティング指導       |
| 10 | 技能統合型の指導：インタラクション | 基本概念、協同学習                        |
| 11 | 文法指導語彙指導          | 基本概念と文法指導基本概念と語彙指導               |
| 12 | 文法指導語彙指導          | 基本概念と文法指導基本概念と語彙指導               |
| 13 | 授業実践評価            | 形態、使用言語、模擬授業観点別評価、誤答分析、Can-doリスト |
| 14 | プロジェクト学習②         | 個人プレゼンテーション                      |
| 15 | 期末試験              | 総まとめ                             |

|           |             |      |      |        |   |      |                   |      |    |
|-----------|-------------|------|------|--------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード     | 21205       |      | 区 分  | 専門基礎科目 |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業<br>科目名 | 英語科教育法Ⅱ(応用) |      | 担当者名 | 井上 聡   |   |      | ○                 |      |    |
| 配当年次      | 2           | 配当学期 | 後期   | 単位数    | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

### <授業の概要>

本授業では、ふたつの教授法（コミュニケーション言語教授法とフォーカス・オン・フォーム）を折衷し、英語で英語を導入するためのスキルを習得します。まず、グループワークを通して、英語で英語を導入するための指導案を作成します。次に、グループを替えながら、模擬授業、動画撮影、相互評価を繰り返し、英文スクリプトを正確に作成する力と英語による模擬授業力を養成します。なお、この授業はブレンド型で行われますので、必ずPCを持参のうえ、臨んで下さい。中高英語免許取得を主専攻とする学生はもちろん、副専攻とする学生にとっても、「英語で英語を教える」スキルを磨くうえで貴重な機会を提供できると思います。

### <授業の到達目標>

1. 事前学習（導入のための英文スクリプト）に取り組むことができる。| 2. 協同学習を通して、適切な英文スクリプトを編集できる。| 3. 協同学習を通して、英語による模擬授業のスキルを高めることができる。| 4. 英語力判定テストを受験し、英語学習のモチベーションを高めることができる。

### <授業の方法>

偶数週 英文スクリプトの編集＋模擬授業|奇数週 マイクロティーチング＋相互評価 |※データの共有はGoogle Classroomで行います。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：英文スクリプトの作成（1時間程度）＋模擬授業の練習（1時間程度）|復習：ふりかえり（30分程度） |※課題の提出はすべてGoogle Classroomで行います。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目の到達目標は教育経営学科のDP⑥（高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている）と関連付けられています。デジタル協同学習において貢献を果たしながら、模擬授業に積極的に取り組み、英語教師として相応しい資質・能力（英語力と指導力）を高めましょう。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習 30%、英語力判定テストの受験 30%、模擬授業 30%、意見交換 20%

### <教科書>

笠島準一他（2016年3月11日）

NEW HORIZON English Course 1

東京書籍

笠島準一他（2016年3月11日）

NEW HORIZON English Course 2

東京書籍

笠島準一他（2016年3月11日）

NEW HORIZON English Course 3

東京書籍

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

| 回  | テーマ       | 授 業 内 容                                              |
|----|-----------|------------------------------------------------------|
| 1  | オリエンテーション | シラバスの説明、デジタル協同作業の導入                                  |
| 2  | 指導案の作成(1) | He is, 複数形, What, 3単現のS, 目的格, 現在進行形1-1, 1-2          |
| 3  | 模擬授業(1)   | He is, 複数形, What, 3単現のS, 目的格, 現在進行形1-3, 1-4          |
| 4  | 指導案の作成(2) | can, 過去・規則変化, 過去・不規則変化, 過去・be動詞, 未来, 第4文型1-5, 1-6    |
| 5  | 模擬授業(2)   | can, 過去・規則変化, 過去・不規則変化, 過去・be動詞, 未来, 第4文型1-7, 1-8    |
| 6  | 指導案の作成(3) | 第5文型, 不定詞・副詞, 不定詞・名詞, will, have to, must1-9, 1-10   |
| 7  | 模擬授業(3)   | 第5文型, 不定詞・副詞, 不定詞・名詞, will, have to, must1-11, 2-1   |
| 8  | 中間テスト     | 模擬授業 英語力判定テスト                                        |
| 9  | 指導案の作成(4) | There is, 動名詞, ... er, ... est, more, most2-2, 2-3   |
| 10 | 模擬授業(4)   | There is, 動名詞, ... er, ... est, more, most2-4, 2-5   |
| 11 | 指導案の作成(5) | 受動態, 使役動詞, 現在完了・継続, 現在完了・経験, 不定詞(根拠), how to2-6, 2-7 |
| 12 | 模擬授業(5)   | 受動態, 使役動詞, 現在完了・継続, 現在完了・経験, 不定詞(根拠), how to3-1, 3-2 |
| 13 | 指導案の作成(6) | It ... to, 現在分詞, 過去分詞, 関係代名詞, 関係代名詞, 関係代名詞3-3, 3-4   |
| 14 | 模擬授業(6)   | It ... to, 現在分詞, 過去分詞, 関係代名詞, 関係代名詞, 関係代名詞3-5, 3-6   |
| 15 | 期末試験      | 模擬授業 英語力判定テスト                                        |

|       |         |      |      |                   |   |      |    |      |    |
|-------|---------|------|------|-------------------|---|------|----|------|----|
| 科目コード | 31217   | 区 分  | コア科目 | 実務経験のある教員等による授業科目 |   |      |    |      |    |
| 授業科目名 | 英語教授法特論 | 担当者名 | 細井 健 | ○                 |   |      |    |      |    |
| 配当年次  | 3       | 配当学期 | 後期   | 単位数               | 2 | 授業方法 | 講義 | 卒業要件 | 選択 |

### <授業の概要>

グローバル社会における英語教育の潮流やこれまでの教授法、日本の英語教育史や政策などを踏まえたうえで、どのように英語を教授し、授業を実践するかについて考えます。英語教師に必要な、単元の目標や計画を立て授業を構想する設計力、学習者の語彙・文法を強化し4技能やコミュニケーション能力を育成する指導力、学習者の取り組みや授業の成果を適切に見定め有益に還元するための評価力について学修します。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参のうえ臨んでください。

### <授業の到達目標>

1. 国内外における英語教育の潮流や教授法などの知識や理論を理解している。2. 4技能やコミュニケーション能力を育成するために必要な実践的指導力を身につけている。3. 教授上必要とされる設計力・指導力・評価力を身につけている。

### <授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4) 省察活動（まとめと発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習（1時間程度）、模擬授業の準備（2時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科ディプロマポリシー7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている」に関連づけられています。特に、中高英語教員を目指す3年次生に対して、教科書に基づいて、英語の教授法を学び、英語指導力を多角的に磨く機会を提供します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への貢献（意見の共有等） 20%、課題への取り組み 40%、レポート課題 40%

### <教科書>

鳥飼玖美子ほか編著（2021）

よくわかる英語教育学

ミネルヴァ書房

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

| 回  | テーマ                    | 授 業 内 容                     |
|----|------------------------|-----------------------------|
| 1  | オリエンテーション              | 授業概要および進め方 英語教授法の変遷と日本の英語教育 |
| 2  | 英語教授法の活用               | 英語授業における教授法の効果的な使用          |
| 3  | 文法訳読法と直接教授法①           | 教授法の理解 授業応用への視点             |
| 4  | 文法訳読法と直接教授法②           | 教授法を取り入れた授業実践               |
| 5  | オーラル・アプローチとオーラル・メソッド①  | 教授法の理解 授業応用への視点             |
| 6  | オーラル・アプローチとオーラルメソッド②   | 教授法を取り入れた授業実践               |
| 7  | コミュニケーション・アプローチ①       | 教授法の理解 授業応用への視点             |
| 8  | コミュニケーション・アプローチ②       | 教授法を取り入れた授業実践               |
| 9  | 第2言語習得理論               | 理論概要 学習-習得モデル 英語授業への応用      |
| 10 | ナチュラル・アプローチ／TBLT／FonF① | 教授法の理解 授業応用への視点             |
| 11 | ナチュラル・アプローチ／TBLT／FonF② | 教授法を取り入れた授業実践               |
| 12 | 内容中心教授法とCLIL           | 教授法の理解 授業応用への視点             |
| 13 | 認知言語学の応用               | 認知言語学の知見を援用した授業             |
| 14 | アクティブ・ラーニングと協同学習       | アクティブ・ラーニング、協同学習を踏まえた授業     |
| 15 | まとめ                    | 授業全体の振り返り                   |

| 科目コード | 51010           | 区 分  | コア科目 | 実務経験のある教員等による授業科目 |   |      |    |      |    |
|-------|-----------------|------|------|-------------------|---|------|----|------|----|
| 授業科目名 | 教育実習事前・事後指導(英語) | 担当者名 | 細井 健 | ○                 |   |      |    |      |    |
| 配当年次  | 3               | 配当学期 | 通年   | 単位数               | 1 | 授業方法 | 実習 | 卒業要件 | 選択 |

### <授業の概要>

教育実習は、教職の現場を自ら体験することによって教師像を確立するという重要な意味を持っている。事前指導では、実習生に求められる任務を遂行する力や授業を行う技術の習得がねらいとする。事後指導では、受講生の実習経験を題材としてディスカッションを中心とした授業を行う。各受講生が教育実習期間中に経験した様々な事例を教材とし、教職に対する理解を深める機会とする。

### <授業の到達目標>

①事前指導においては、教育実習において必要な心構え、指導案作成の技術を身に付ける。②事後指導では、実習中に経験したことに基づいた授業の報告やディスカッションを通し、各自が目標とする教師像を確立する。

### <授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4) 省察活動（まとめと発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：模擬授業の準備、指導案の作成（2時間程度） 復習：振り返りレポート（毎回、2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」に関連づけられている。中等教育（英語）に関する知識・技能を修め、次世代の教育者や指導者を目指す人を育成するための応用科目であり、特に、中高英語教員を目指す4年生に対して、教科内容を理解したうえで、授業を構成し実践するための基礎的な素養を身につける機会を提供する。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加姿勢・貢献 20%、指導案作成・模擬授業 50%、教育実習・実習報告 30% （一定の水準に達していない学生は、教育実習を認めない場合がある。）

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

| 回  | テーマ       | 授 業 内 容             |
|----|-----------|---------------------|
| 1  | 教育実習に臨んで  | 教育実習の目的、心構え、準備      |
| 2  | 授業観察      | DVD教材を利用した授業観察、授業分析 |
| 3  | 授業準備      | 教科書分析・指導案作成準備       |
| 4  | 指導案の作成（1） | 指導案作成の手順            |
| 5  | 指導案の作成（2） | 指導技術の工夫             |
| 6  | 模擬授業（1）   | 模擬授業を実施             |
| 7  | 模擬授業（2）   | 模擬授業を実施             |
| 8  | 模擬授業（3）   | 模擬授業を実施             |
| 9  | 模擬授業（4）   | 模擬授業を実施             |
| 10 | 事前指導のまとめ  | 事前指導で学んだ内容の確認       |
| 11 | 教育実習の報告①  | 実習報告とディスカッション       |
| 12 | 教育実習の報告②  | 実習報告とディスカッション       |
| 13 | 教育実習の報告③  | 実習報告とディスカッション       |
| 14 | 教育実習の報告④  | 実習報告とディスカッション       |
| 15 | 事後指導のまとめ  | 実習全体の振り返り           |

| 科目コード | 53012            | 区 分  | コア科目 |     |   | 実務経験のある教員等による授業科目 |    |      |    |
|-------|------------------|------|------|-----|---|-------------------|----|------|----|
| 授業科目名 | 教職実践演習(中学校・高等学校) | 担当者名 | 細井 健 |     |   | ○                 |    |      |    |
| 配当年次  | 4                | 配当学期 | 後期   | 単位数 | 2 | 授業方法              | 演習 | 卒業要件 | 必修 |

### <授業の概要>

本授業では、これまでに受講した授業と教育実習の振り返りを通してこれまでの学びの内容を確認し、英語教師としての自己成長を続けることのできる能力の習得を目指します。模擬授業、事例研究、新しい指導技術の実践を通して教育現場で必要とされる学級経営力、生徒指導力、英語教師として教育実践力を高めます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参のうえ臨んでください。

### <授業の到達目標>

①英語力を高め自己研鑽をするなど『英語教師の成長』について考え見通しを立てることができる。②教育実習の経験を踏まえたうえで様々な教育課題を建設的に批判し、解決に向けての具体案を提示できる。

### <授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4) 省察活動（まとめと発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習（1時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科ディプロマポリシー7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている」に関連づけられています。中等教育（英語）に関する知識・技能を修め、次世代の教育者や指導者を目指す人を育成するための応用科目であり、特に、中高英語教員を目指す4年生に対して、教育実習を経験したうえで、教育課題を考え、解決に向けて取り組む力を養う機会を提供します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業への積極的な参加姿勢・グループ活動での貢献 20%、②模擬授業 30%、③課題・レポート 50%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

| 回  | テーマ          | 授 業 内 容                       |
|----|--------------|-------------------------------|
| 1  | 教職実践演習とは     | 教職実践演習の目的、教師に求められる資質・能力と教育実践力 |
| 2  | 入門期の音・文字指導   | アルファベットとフォニックスの指導             |
| 3  | 英語教育の理論と政策   | 教授法の変遷と日本の英語教育                |
| 4  | 英語教育における評価   | テスト作成・評価（CAN-DOリスト／観点別評価）     |
| 5  | 指導技術（1）      | 音声・リスニング指導：つまづきへの対応           |
| 6  | 指導技術（2）      | スピーキング指導・音読：他教科との連携           |
| 7  | 指導技術（3）      | リーディング指導：なぜ読むのか               |
| 8  | 指導技術（4）      | ライティング指導                      |
| 9  | 内容・題材論       | 言語の目覚め・創造性：詩について              |
| 10 | 方法・指導論       | 教科教育で用いられる様々な題材・指導方法・ICTの活用   |
| 11 | 授業形態         | 協同学習、ペア・グループワーク               |
| 12 | 英語史          | 英語教師が知っておくべき英語の歴史             |
| 13 | 学習者・教師論      | 動機づけ・自己効力感                    |
| 14 | 自律的学習者を育てる工夫 | 授業で行う活動・家庭学習に求められる内容          |
| 15 | まとめ          | 教育実践力磨き続けるために                 |